

第5学年国語科学習指導案

日 時 平成16年11月16日(火)
児 童 男子6名 女子3名 計9名
指導者 村 井 雅 子

- 1 単元名 地球環境について考えよう
教材名 一秒が一年をこわす ホタルのすむ水辺 「子ども環境会議」を開こう
より確かな情報を

2 単元について

(1) 教材について

学習指導要領における第5学年及び第6学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

本単元『地球環境について考えよう』は、大きく2つのことをねらいとしている。1つ目は、2つの説明文教材に書かれている内容について事実や事例と筆者の考えの関係を押さえながら筆者の考えをとらえ、それに対して自分の考えを持つことである。2つ目は、興味ある環境問題について調べたことをもとに、「環境について自分たちができること」という議題で、自分の立場をはっきりさせながら話し合うことである。

第1教材「一秒が一年をこわす」は、論理的な構成と的確な表現を用い、地球環境の危機的な状況を訴えている説明文である。また、接続語や文末表現から、事実や事例の述べ方と筆者の考えの述べ方の違いがとらえやすい教材でもある。「一秒が一年をこわす」という題名も読み手の興味をひくものであり意欲的に読み進めることができると思われる。第2教材「ホタルのすむ水辺」は、説明文の基本ともいえる文章構成で、自分の生活を見直すことの必要性を述べた説明文である。第3教材「『子ども環境会議』を開こう」は、会議のための資料の作り方や会議の進め方を具体的に示した教材である。第4教材「より確かな情報を」は、より確かな情報を得るために必要なことを具体的に示した教材である。

2つの説明文教材では、接続語や文末表現、文章構成に着目しながら読み取る学習を通して、事実や事例と筆者の考えの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができると思われる。また、調べたりまとめたりしたことをもとに「子ども環境会議」を行う学習を通して、自分の立場をはっきりさせながら話し合う力を身につけることができると思う。

(2) 児童について

子どもたちは、これまでに、「読むこと」の学習として「海にねむる未来」で視点をもとに事例を整理して読み、筆者の考えをとらえる学習を行った。このことにより、事実と意見を区別して内容を的確に押さえながら読むことができるようになってきている。また、自分の考えをもちながら読もうとする態度が育ってきている。しかし、文章中からキーワードやキーセンテンスを見つけることを苦手とする子ども、接続語の役割について十分理解していないために文章の内容や構成をとらえることができない子どもも多い。読書の様子を見ると、全体的に読書量が少なく、簡単でおもしろいものを望む傾向にある。しかし中には、ノンフィクションや調べ学習に役立ちそうな本に興味をもって読んでいる子どももいる。情報収集については、総合的な学習などで数多く経験しており目的に応じて必要な図書資料を選ぶことはできるが、その中から本当に自分に必要な情報を得ることが難しい。

「話すこと・聞くこと」の学習では、自分の立場をはっきりさせ、考えに理由を付けて話す力が育ってきている。しかし、友達と自分の考えを比較しながら話そうとするまでには至っていない。

(3) 指導について

本単元では、読むことに関わって、「目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること(読イ)」「書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと(読工)」という基礎・基本の定着をはかるために、内容を的確に押さえながら読んで筆者の考えについて学び合い自分の考えをもつという言語活動を行う。

そのために、意味段落ごとに、接続語や文末表現に着目しながら事実や事例の述べ方や筆者の考えの述べ方の違い気づくことができるようにする。また、筆者の考えが表れている言葉や語句、文の表す意味内容について考え話し合うことができるようにする。その際、何について考えればよいのかということをも明らかにし、子どもがスムーズに学習できるようにしたい。そして、筆者の考えに対する自分の考えをグループや全体の場で発表し合いながら明確にし、まとまった文章に表すことができるようにしたい。

さらに、「子ども環境会議」を開き自分の立場をはっきりさせながら話し合うという単元のねらいから、環境問題に関する本や資料を学級に用意し、関心を高めることができるようにする。

3 単元の目標

地球環境について考えながら文章を読んで要旨をとらえ、自分の課題をもつ。課題について調べたことを整理して資料を作り、「子ども環境会議」を開いて、考えを深める。

4 評価規準

【関心・意欲・態度】 地球環境について関心を持ち、さまざまな問題に対する自分の考えを深めようとする。

【読むこと】
・地球環境の危機的な状況を知るといった目的で文章を読み、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることができる。
・書かれている内容について、事実や事例と筆者の考えの関係を押さえ、自分

- の考えをもちながらよむことができる。
- 【話すこと・聞くこと】環境についての議題に関して、自分の立場をはっきりさせながら話し合い、自分の考えを深めることができる。
- 【書くこと】調べたことの中から必要な事柄や資料を選び整理することができる。
- 【言語事項】接続語や文末表現から事実と意見の関係を捉え、文章の構成を考えることができる。

5 指導計画（読むこと8 話す・聞く4 書く3 15時間扱い）

過程	時	指導目標	学習活動	重点指導の内容	
つ	1	学習の見通しをとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> 単元のねらいを知り学習の見通しをもつ。 「一秒が一年をこわす」の学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の流れを確かめ、目的意識相手意識をもって学習を進めることができるようにする。 題名について話し合い教材への興味・関心を高めることができるようにする。 	
ふ	2	文章の内容を的確に押さえながら読み、要旨をとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> 第1段落の筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 文末表現や接続語に着目して、事実や事例と筆者の考えを区別して読むことができるようにする。 	
	3	事実と事例、考えの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む。	<ul style="list-style-type: none"> 第2段落の筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な数字に着目して地球の危機的な状況を読み取ることができるようにする。 	
	4		<ul style="list-style-type: none"> 第3段落の筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 意味段落ごとに自分の考えをもたせることにより、要旨に対する自分の考えをまとめる学習に生かすことができるようにする。 	
	5		<ul style="list-style-type: none"> 要旨をまとめ、それに対する自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意図が表れている言葉に着目して要旨をまとめることができるようにする。 自分の身の回りの環境問題と筆者の考えを比べるなどしながら、考えをまとめることができるようにする。 	
	6		<ul style="list-style-type: none"> 「ホタルのすむ水辺」を読んで筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の意図が表れている言葉に着目して読み取ることができるようにする。 	
ひ	8	調べたことの中から必要な事柄や資料を選び整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども環境会議」までの手順について話し合う。 調査や発表の仕方について学び、グループごとに調べる計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表までの手順や、調べる方法や内容について教材をもとに具体的に示し、しっかりと見通しをもつことができるようにする。 	
	9	自分の立場をはっきりさせて話し合い、考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに調査活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「より確かな情報を」の内容にもふれながら、多角的に調べ資料を準備することができるようにする。必要に応じてヒントを与える。 	
	10		<ul style="list-style-type: none"> 発表原稿を書く。 発表現行をもとに発表練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 視聴覚機器なども使いながら説得力ある発表をすることができるようにする。 発表態度や発表内容などの観点を示し、効果的な練習ができるようにする。 	
	11			<ul style="list-style-type: none"> 「子ども環境会議」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見カードを用い、自分の考えをもちながら聞くことができるようにする。
	12			<ul style="list-style-type: none"> 「子ども環境会議」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見カードを用い、自分の考えをもちながら聞くことができるようにする。
13	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども環境会議」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見カードを用い、自分の考えをもちながら聞くことができるようにする。 			
14	<ul style="list-style-type: none"> 「子ども環境会議」を開く。 	<ul style="list-style-type: none"> 意見カードを用い、自分の考えをもちながら聞くことができるようにする。 			
まとめる	15	自分の情報収集活動を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 「より確かな情報を」を読み、これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの情報収集が適切だったのかを振り返ることにより、教材の内容の理解を深めることができるようにする。 	

6 本時の指導

(1) 本時の目標

筆者の考えが強く表れている言葉から筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもつことができる。

(2) 展開 (4 / 15)

評価	個に応じた指導	学習活動と内容	過程
課題をとらえることができたか。 (発言・態度)		1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。 地球環境についての筆者の考えを読み取り、自分の考えをもとう。	つかむ
筆者の考えをとらえることができたか。 (ノート・発言) 自分の考えをもつことができたか。 (ノート・発言)	・形態を変えた音読を取り入れる。 ・比較が目に見えるような掲示を工夫する。 ・一人学びに入る前に、筆者の考えが強く表れている段落について確かめる。 (「ちがいない」に着目させる。) ・「おごりたかぶる」「しっぺ返し」の言葉を言い換えさせる。 ()に言葉を当てはめるワークシートを用意する。 対話をしながら自分の考えを明らかにすることができるようにする。	3 学習範囲を音読する。 (P43L5~最後) (バラ読み リレー読み) 4 地球の歴史と人類の歴史の比較について読み取る。 (全) 5 筆者の考えについて読み取る。 (個) 6 筆者の考えについて学び合う。 (グループ 全) 7 筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。 (個) 8 考えを交流する。(全)	ふかめる
		9 学習のまとめとして音読をする。 (指名) 10 本時の学習を振り返る。 (個・全)	まとめる
		11 次時の学習について確かめる。	広げる

7 評価規準

【読むこと】

- A 数字の置き換えや筆者の考えが強く表れている言葉から筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもっている。
 - B 筆者の考えが強く表れている言葉から筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをもっている。
- Bにいたらない子への支援
筆者の考えを書き出せずにいる子には、「おごりたかぶる」や「しっぺ返し」が文中でどんな意味で使われているか考えるように助言する。

【言語についての知識・理解・技能】

事実や事例と筆者の考えの述べ方の違いを理解している。

【関心・意欲・態度】

筆者の考えが強く表れている言葉に注意しながら筆者の考えをとらえ、それに対する自分の考えをもとうとしている。